

3. 部門別業務資料

3－1 診療部

循環器内科

令和6年度も引き続き毎週木曜日に向井医師、毎週金曜日に内藤医師が診療を行った。また、浜松医科大学循環器内科より月曜日に坂本医師、水曜日に井口医師にお越しいただき外来診療を行った。心臓CT読影には、毎週水曜日に熊澤医師にお越しいただいた。

対象患者は心不全、虚血性心疾患、心臓弁膜症、不整脈、大動脈疾患、高血圧などが主であるが、心臓カテーテル検査は施行していないため、精査やカテーテル治療が必要となる症例は他院へ紹介している。

主な循環器検査内容

	令和5年度	令和6年度
心電図	2,420件	2,640件
心エコー	898件	888件
ホルター心電図	62件	49件
トレッドミル	8件	8件

呼吸器内科

令和6年度も引き続き浜松医科大学呼吸器内科より毎週月曜日に中井医師、毎週火曜日に田熊医師、毎週木曜日には穂積医師が外来診療を行った。入院が必要な患者は近隣病院と連携を図り、紹介や当院内科医師への依頼とした。

神経内科

令和6年度は、毎週火曜日に小野澤医師による神経内科外来並びに物忘れ外来診療を5月まで行った。以降は医師の退職により休診とした。

消化器内科

令和6年度は宮津医師、山中医師2名の常勤医を迎え、藤田医師と3名体制で毎日消化器外来診療を行った。別紙に報告はあるが、治療内視鏡の内視鏡検査施行は増加した。

リウマチ・内分泌内科

令和6年度も毎週水・金曜日に大橋医師、毎週月・火・水・金曜日に近藤医師、毎週木曜日に浜松医科大学免疫・リウマチ内科の古川医師がリウマチ科診療を行った。

生物学的製剤の症例は年々増加しており、令和6度は合計600人に投与した。

	令和5年度	令和6年度
外 来 延 患 者 数	7, 0 6 9 人	7, 0 9 8 人
生物学的製剤使用患者数	5 4 6 人	6 0 0 人

生物学的製剤使用内訳【令和6年度】

エタネルセプト	8 9 人	レミケード	1 4 人
シンボニー	7 3 人	ジセレカ	5 5 人
アクテムラ	7 5 人	シムジア	1 7 人
エンブレル	4 5 人	ゼルヤンツ	1 6 人
オレンシア	6 2 人	ケブザラ	1 3 人
オルミエント	4 6 人	インフリキシマブ BS	6 人
リンヴォック	3 4 人	スマイラフ	2 人
アダリムマブ	2 6 人	ナノゾラ	5 人
ヒュミラ	2 2 人	合計	6 0 0 人

小児科

外来患者数は、新型コロナウイルス流行以前の患者数を上回り順調に推移しており、ここ数年最大の規模を維持している。常勤医師1名という状況で、地域の助産院への新生児診察（往診）及び重症児への訪問診療（含む、訪問リハビリ）なども継続しており、地域の総合病院として様々な取組を行っている。病院及び病棟の事情により、小児の入院受入れを一旦休止しているが準備が整い次第再開したい。

専門外来として、浜松医科大学からの派遣による内分泌外来（週1回、金曜日）、福田医師による神経外来（月2～3回）、石川医師による循環器外来（月1回）を行っている。

今後も既に行っている新生児蘇生法講習会を地域（救急隊など）に向けて発信し、近隣病院と連携を深めながら、地域医療を更に充実させるよう取り組んでいきたい。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
外 来 患 者 数	5, 8 5 2 人	5, 1 0 7 人	5, 1 5 9 人
入 院 患 者 数	0 人	0 人	0 人
レ ス パ イ ト	8 人	0 人	0 人
重症児訪問診察	2 3 人	3 2 人	3 0 人
新生児訪問診察	1 6 人	1 4 人	1 4 人
新規発達相談件数	4 5 人	7 1 人	6 1 人

外科

令和6年度は、大石医師、杉原医師の常勤2名と、中村医師(週1回)の3名を中心に外来・手術を行った。また、浜松医科大学第二外科の露木医師による血管外科診療を週1回行った。

患者数

	令和5年度	令和6年度
外来延患者数	3,466人	3,258人
入院延患者数	2,856人	2,374人
退院患者数	211人	214人

手術症例

麻酔	令和5年度	令和6年度
局所麻酔	22人	16人
静脈麻酔	0人	0人
脊椎・硬膜外麻酔	2人	2人
全身麻酔(含：硬膜外麻酔併用)	92人	94人
合計	116人	112人

臓器・分類	令和5年度	令和6年度
リザーバー留置	10件	9件
虫垂炎・痔核・ヘルニア	38件	50件
胃	4件	1件
小腸・大腸	26件	25件
肝・胆・膵・脾	22件	14件
腹膜炎	0件	1件
乳房	4件	1件
肺・胸部	0件	0件
食道関連	0件	0件
血管関連	1件	0件
子宮関連	0件	0件
腎臓	0件	0件
膀胱	0件	3件
皮下皮膚	1件	1件
その他	10件	7件
合計	116件	112件

内視鏡

令和6年度は宮津医師、山中医師 2名の消化器内科医が増員となり、藤田医師を中心に宇於崎医師、外科杉原医師、浜松医科大学第二外科より立田医師にもお越しいただき検査を行った。その他の検査が増えたものとして、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）など治療内視鏡が増加したことが挙げられる。

内視鏡検査件数

	令和5年度	令和6年度
胃カメラ (うち胃瘻造設)	1,406件 (4件)	1,512件 (4件)
E R C P	61件	80件
大腸カメラ	415件	437件
その他	8件	32件
合計	1,890件	2,061件

整形外科

令和6年度は鈴木、山下、山本の3名で外来診療および手術を行った。毎週水曜日に浜松医科大学整形外科の坂野医師が外来診療及び脊椎手術を行った。

手術症例は、外傷及び変性退行疾患を山下、山本が担当し、リウマチ性疾患症例を鈴木が主に担当した。

	令和5年度	令和6年度
外来延患者数	11,212人	11,861人
入院延患者数	4,807人	4,716人
退院患者数	211人	201人
手術症例数	330人	293人

脳神経外科

令和6年度も非常勤の医師に応援いただき、脳神経外科の外来診療及びパーキンソン外来を継続した。第3月曜、第1.2.4.5水曜に金城医師、火曜山崎医師、水曜山本医師、第1・3金曜に門脇医師、第2金曜に横田医師に応援いただいた。

皮膚科

当科では皮膚科一般を診療しており、その対象は湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、水疱症、脈管性皮膚疾患、物理・化学的皮膚障害、皮膚腫瘍、感染性皮膚疾患等が挙げられる。

飯田医師の診療に加え、木曜日の午後には浜松医科大学皮膚科より小倉医師に、4月から8月までは毎週、9月からは第1.3.5週にお越しいただき、外来診療を行った。

	令和5年度	令和6年度
外来延患者数	4,624人	5,050人
入院延患者数	94人	90人
退院実患者数	8人	9人

産婦人科

令和6年度は毎週火曜日に佐倉医師、毎週木曜日に隔週で浜松医科大学産婦人科の福地医師と水野医師が外来診療（初診可）を行った。

当院で出産は行っていないが、平成28年度より、おはな助産院（御前崎市）、つむぎ助産院（菊川市）とも契約を結び、必要に応じて健診等を行っている。今後も、妊婦さんが安心して出産できるよう努めていきたい。

	令和5年度	令和6年度
産婦人科外来患者数	591人	671人
子宮癌検診（ドック）	276人	276人
子宮癌検診（市検診）	634人	528人
他病院への紹介（手術・分娩等）	14人	19人

耳鼻咽喉科

令和6年度も浜松医科大学医学部附属病院等からの応援を得て、外来診療のみを行った。毎週月曜日は瀧澤医師、火曜日は4月から6月まで森田医師、7月から三澤医師へ変更。木曜日は4月から6月は三澤医師、7月から森田医師が診療を行い、水曜日（1回/月）は、みねた耳鼻咽喉科・めまいクリニックの峯田医師が予約診療を行った。

急性期で入院加療の必要な患者様には、浜松医科大学附属病院、中東遠総合医療センターなどの施設へ入院加療をお願いしている。頭頸部の悪性腫瘍や手術などは、浜松医科大学医学部附属病院を中心に加療をお願いしている。

引き続き近隣病院との連携を深めながら地域医療の維持に努めていきたい。

	令和5年度	令和6年度
外来延患者数	2,192人	2,316人

泌尿器科

令和6年度は浜松医科大学泌尿器科医局より、毎週火曜日に渡邉医師にお越しいただき、診療を行った。手術が必要な場合は近隣病院等へ紹介し連携を図っている。

	令和5年度	令和6年度
外 来 延 患 者 数	830人	785人

形成外科

令和6年度より、週1回の診療へ減少となった。毎週火曜日に浜松医科大学形成外科の太田医師に引き続き診療をお願いした。必要に応じ、手術室及び外来で手術を行った。

	令和5年度	令和6年度
外 来 延 患 者 数	1,150人	896人
手術室での手術件数	107件	89件

麻酔科

令和6年度は、乙咩医師1名体制で手術時の麻酔全般を担当した。また、ペインクリニック外来は毎週火曜日に診療を行い、「痛み」を主訴とする疾患を対象にブロック療法を主体に、西洋薬処方及び漢方薬処方等も併用しながら診療に当たった。

	令和5年度	令和6年度
外 来 延 患 者 数	865人	737人
麻酔科担当手術麻酔件数	252件	226件

リハビリテーション科

リハビリテーション科は、外来を田中医師（2～3回/月）、回復期リハビリテーション病棟を向井医師と整形外科医師も協力し行った。また、月1回浜松医科大学リハビリテーション科より永房医師にもお越しいただき診療を行った。

	令和5年度	令和6年度
外 来 延 患 者 数	3,894人	4,339人
入 院 延 患 者 数	19,969人	19,567人
退 院 実 患 者 数	315人	303人

眼科

令和6年度も浜松医科大学、浜松医療センター、静岡赤十字病院より医師を派遣していただきました。
外来日が縮小しましたが、検査数、外来の患者数は、ある程度維持できた。

浜松医科大学

○毎週水曜日 午前

(月 1～2 回) 古森医師

鈴木医師 (月 1 回)

○木曜日 午前

(月 1 回) 堂本医師

静岡赤十字病院

○毎週月曜日 午前 (7 月～12 月) 毎週火曜日 午後 (4 月～6 月・1 月～)

松岡医師

浜松医療センター

○毎週金曜日 午前

八角医師

	平成 31 年度 令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
外来患者数	1,956 人	2,390 人	2,900 人	3,208 人	3,358 人	3,326 人
細隙灯顕微鏡検査 (前眼部)	1,289 件	1,602 件	1,992 件	2,155 件	2,511 件	2,469 件
細隙灯顕微鏡検査 (前・後眼部)	637 件	773 件	903 件	732 件	789 件	845 件
精密眼底検査(片側)	40 件	70 件	65 件	43 件	144 件	193 件
精密眼底検査(両側)	1,658 件	1,916 件	2,433 件	2,708 件	2,663 件	2,179 件
後発白内障手術	5 眼	5 眼	6 眼	6 眼	18 眼	14 眼
虹彩光凝固術	0 眼	0 眼	0 眼	0 眼	0 眼	0 眼
網膜光凝固術 通常	2 眼	1 眼	0 眼	0 眼	6 眼	1 眼
網膜光凝固術 特殊	2 眼	5 眼	7 眼	4 眼	5 眼	4 眼
水晶体再建術	0 眼	0 眼	0 眼	0 眼	0 眼	0 眼

透析センター

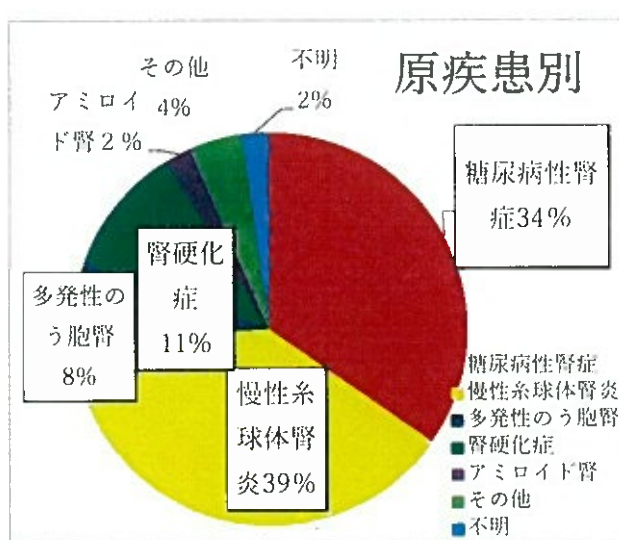
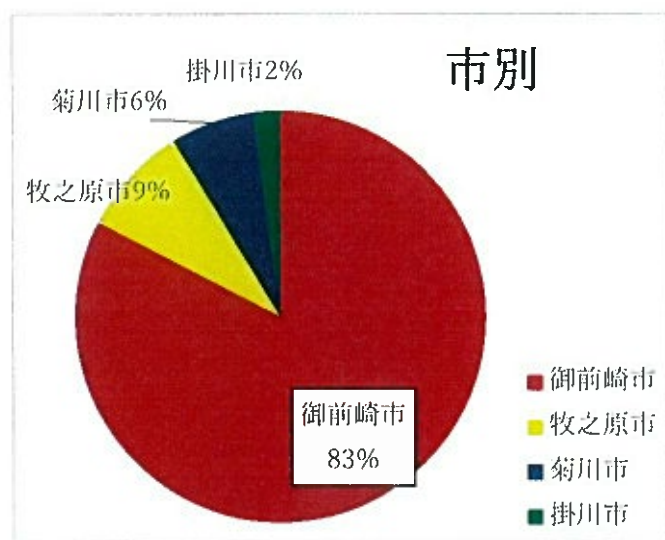
令和6年度新規導入患者は0名、他院からの転入は1名、転出は4名、死亡患者数は4名であった。回復期病棟への転入透析患者は0名であった。

今年度も昨年度同様に浜松医大から月水金に3名の医師が交代で対応して下さり治療を継続している。入院治療や透析導入などは当院内科医師と連携を図り対応した。透析治療方法は合併症予防・血圧低下予防を考慮し全員をオンラインHDFとしている。

COVID-19 やインフルエンザによる透析患者の感染には昨年度同様火木土に対応することで、時間的空間的に感染隔離を行い透析センター内でのクラスター予防に努めた。

透析センター内業務集計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	平均 件数
血液透析	血液透析 (HD)	0	0	0	2	0	2	0	0	7	12	0	23	1.9
	血液濾過透析 (HDF)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	血液濾過透析 (OHDF)	564	588	488	566	514	525	511	494	491	519	420	6122	510.2
	血液濾過 (HF・ECUM)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.1
	血液透析+血液吸着	13	14	12	0	13	13	13	13	13	14	12	143	11.9
	病棟内血液透析	0	0	0	0	1	0	2	0	0	0	0	3	0.3
血液浄化	持続的腎代替療法	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	血液吸着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	血漿交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	二重膜濾過血漿交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	血漿吸着	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	腹水濾過濃縮	0	0	1	0	1	0	2	1	0	1	0	6	0.5
合 計		577	602	501	568	529	540	528	508	511	546	433	6298	524.8
維持透析患者数		45	46	43	43	42	43	41	40	41	40	38	500	41.7
透析関連機器点検件数		41	97	19	46	41	19	72	51	13	96	20	553	46.1
体液量測定件数		5	2	4	4	1	7	10	1	1	1	0	36	3.0
血圧脈波検査件数		2	1	1	4	4	0	0	1	11	3	1	29	2.4



健診センター

令和6年度の受診者数は、前年より減少となった。市住民検診である乳がん検診や子宮がん検診の受診者が減少したが、次年度よりレントゲン女性技師が増員されるため、増加を期待している。

企業健診・協会けんぽ健診では、従業員の減少や各事業所助成金額の減少等の影響により、受診者数の増加は難しいところであるが、新規企業等の申し込みは増加している。受診月の調整により受診者数の確保に努める。

令和6年度 統計資料

ドック受診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1日ドック	70	73	80	126	98	54	127	130	76	64	42	130	1,070
1泊ドック	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳ドック	0	0	0	2	0	2	5	4	4	5	5	3	30
企業健診	58	63	39	38	38	693	55	441	23	15	57	14	1,534
市乳がん検診	0	0	166	185	152	19	0	0	88	74	0	0	684
市子宮がん検診	0	0	120	139	115	18	0	0	75	61	0	0	528
市骨粗しょう症検診	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115	0	115
特定健診	8	6	32	61	53	23	53	34	28	37	4	7	346
協会けんぽ健診	35	61	59	98	82	40	90	95	48	47	59	21	735
職員健診	0	272	0	0	0	0	362	0	0	0	0	0	634
合計	171	475	496	649	538	849	692	704	342	303	282	175	5,676

オプション受診件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
乳がん検査	14	18	32	23	42	12	44	36	32	32	19	11	315
子宮がん検査	13	13	28	17	43	15	43	27	20	26	22	9	276
MRI検査	2	11	10	23	11	6	16	13	8	6	11	0	117
動脈硬化検査	3	6	2	6	6	2	2	2	0	2	0	0	31
骨密度	1	1	4	4	4	2	6	7	2	2	1	0	34
胸部CT	1	4	2	2	3	0	3	4	2	3	4	1	29
PSA	6	11	15	13	15	8	30	21	15	14	7	24	179
合計	48	54	108	64	123	48	131	92	83	89	61	44	945